

ドイツの大学アメリカ人を募集：優れた頭脳を求む

ドイツの大学はこれまで博士号取得年齢が31歳前後、大学教授資格（ハビリタチオン）取得が40歳前後で、独立した研究を行うことができる教授職着任までの道のりは非常に長く、優秀な若者がその道のりを敬遠し、アメリカや産業界に流れていくこと、特にアメリカへの頭脳流出が問題視されてきた。それと同時に欧州では国際的に優れた頭脳がアメリカに一極化集中していることも懸念されている。例えば、フンボルト財団がフラウンホーファー協会と協力して Fraunhofer Bessel Research Award を新設し、優れたアメリカの若手研究者を招へいしようという動きもあるように、ドイツの大学でもアメリカから優れた頭脳を呼び寄せようという動きが見られるので紹介する。ここで紹介するように、ドイツではコンソーシアム的な大学間連携、協力がさかんになってきている。日本では大学の国際化などに向けた大学間連携はどの程度取り組まれているのだろうか。そして、そのために学振海外研究連絡センターは何ができるのだろうか。

ドイツの大学は世界中から学術的才能を募集している。ミュンヘン-ブレメン間の35の大学を代表する七つのコンソーシアムが今までにない形でアメリカからの研究者、講師や学生を募っている。「世界のトップ頭脳の何人かをドイツに欲しいと思っている。」と、DAAD（ドイツ学術交流会）在米センターのセンター長 Ulrich Grothus 氏はドイツプレス（dpa: Deutsche Presse-Agentur GmbH）に語った。

例えば、在モスクワの Berlin-Humboldt 大学連絡事務所のように、過去にもいくつかの大学による似たような試みがあった。今回新しいのは3ダースにもおよぶドイツの大学がアメリカで、- ニューヨークの国連本部の斜め向かいにある DAAD の傘下のドイツ・ハウス（Deutsches Haus）で - 共同して取り組むことだ。そこからアメリカの大学との交流を深め、ドイツへの研究協力の依頼を受け、そして優れたアメリカの科学者達を募集する。

「国際的な競争力を保つためにはもっと積極的に行動し、将来的に教育関係にもっとお金をかけなければいけない」と、Freie Universitaet Berlin 大学（FU）の Dieter Lenzen 学長はニューヨークの新しい連絡センターの設立祝賀会で述べた。それには特に自然科学やエンジニアリング科学の分野で、（ドイツの大学で）英語での講義を増やすことも含まれる。

「ドイツでの流動性を振興すれば、ドイツの学生にとっても海外留学がしやすくなる」と、ミュンヘン Ludwig-Maximilians 大学（LMU）の Bernd Huber 学長。FU と LMU はすでに 2004 年に戦略的なパートナーシップを約束しあい、今回さらにニューヨークに共同の連絡センターを設立した。

アメリカ人にとってドイツの大学に来ることは数多くのメリットがある。何よりも経済的な利点は大きい。アメリカの Harvard, Yale や Princeton などのアイビーリーグ・エリート大学でのパチェラー取得までの4年間は15万\$（11.6万ユーロ：約1500万円）ものコストがかかるのに対し、ドイツでの大学教育はアメリカからの若者にとってもほぼ無料である。ポローニャ宣言によるドイツでのマスターやパチェラー制への変更によって、今後ドイツ留学中に取得したクレジット・ポイントを帰国後アメリカで問題なく換算することが可能になる。

大学の国際化によって才能の流出を防ぎ、できるだけ多くのアメリカ滞在中のドイツ人博士号取得志望者をドイツに呼び戻すことも目指す。一方、ドイツ留学中のアメリカ人学生数を DAAD は 5.500 名ほどと数える。アメリカ人はポーランド人に次いでドイツの大学への外国人留学生の最も高い割合を占めている。（注）

現在ドイツの大学の 10 人中 1 人は外国国籍を持っている。専門家によると、ドイツが国際的な競争力を持った大学国であると主張出来るためには少なくとも 20 から 25% までの大学での占有率を他国からの「トップ頭脳」達に用意しなければならないという。

注：本掲載記事によると、アメリカからドイツへの留学生がポーランドに次いで 2 番目となっていたが、実際には（確かにアメリカからの留学生は年々増えてはいるようだが）、2004 年統計では、1 位：中国（25284 人）、2 位：トルコ（24448 人）、3 位：ポーランド（14350 人）、4 位：ブルガリア（12048 人）、5 位：ロシア（10814 人）、6 位：モロッコ（8097 人）、7 位：ウクライナ（7238 人）、8 位：イタリア（7183 人）、9 位：ギリシャ（7043 人）、10 位：フランス（6431 人）とアメリカは 10 位内にも入ってこないで、明らかな誤りであると思われる。（この 2004 年統計ではアメリカは 3324 人）留学生数に関する参照統計は、<http://www.wissenschaft-weltoffen.de>による。

（ボン研究連絡センター）